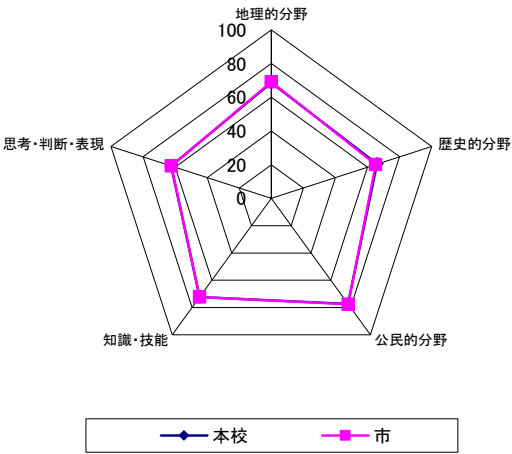


宇都宮市立陽西中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	68.7	69.2	61.5
	歴史的分野	65.9	65.1	59.1
	公民的分野	77.4	77.6	71.6
観点別	知識・技能	72.4	72.2	66.8
	思考・判断・表現	62.5	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	市の平均正答率を0.5ポイント下回っている。 ○日本の諸地域に関する資料読み取り問題など、思考判断の問題では、市の平均を8.4ポイント上回っているものもある。資料を提示し、読み取らせるような取り組みの積み重ねの成果といえる。 ●日本地理の地形に関する問題や、人口の特色に関して複数の資料を関連付ける問題では、市の平均を5ポイント以上下回っている。	・従来から実施している多様な資料を提示し、生徒の興味関心を高める工夫を継続させる。 ・複数の資料を読み取り、得られた情報を関連させて考えを深める時間を確保していく。
歴史的分野	市の平均正答率を0.8ポイント上回っている。 ○「近世の日本」の設問では、知識・技能の問題の正答率が高い。 ●市の平均を3ポイント以上下回ったものは、江戸幕府の政治に関する問題や、古代文明の問題である。資料活用の技能の習得に偏りがある。	・従来から実施している、適切な課題を設けて行う学習を継続させ、課題を解決させていく過程で、基礎知識の確認と、思考・判断・表現の育成を図る。また、授業ごとの振り返りを実施し、自身の考えや疑問点などを表現する時間を確保していく。 ・各学習単元ごとに、コンスタントに資料を読み取る活動を行い、資料活用の技能の育成を図る。
公民的分野	市の平均を0.2ポイント下回っている。 ○市の平均を上回っている内容は、憲法改正や公共の福祉の問題である。資料活用問題の正答率も高い。 ●私たちの生活と現代社会の問題での正答率が低い。	・新出の用語はその意味を説明し、身近にある社会的事象との関連性を明示していくことで、知識を定着させていく。 ・持続可能な社会を担う将来の主権者としての資質能力育成のため、自分自身が社会に対してできることを考える場を学習活動に計画的に位置づけ、実践する。